

戦略Ⅲ 身近な歴史に親しむ界隈づくり

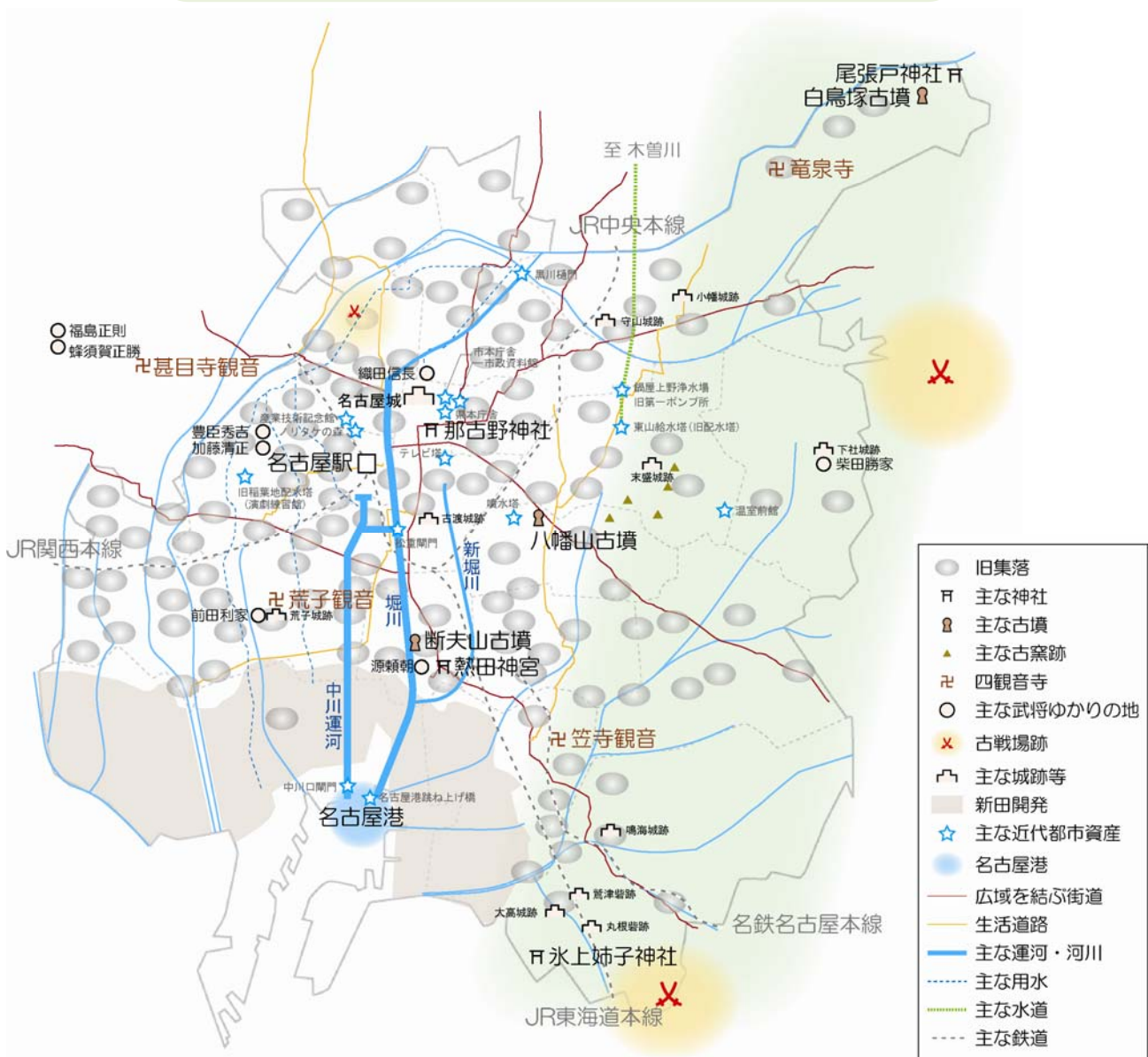
第2章で述べたように、名古屋においては、身近な地域においても異なる時代の多様な歴史的資源が残っています。また、人々に気づかれずに眠っているものも数多くあると思われます。さらに、一つの地域でも見方によって、それぞれの地域の特色が違って見え新たな魅力に気づく場合もあります。

それぞれの地域に残る多様な歴史・文化資源を活かした、身近で多様な界隈の魅力向上を図り、名古屋のあちこちで市民が親しみ・楽しむことができる歴史環境づくりを進めます。

方針 1 身近な歴史的界隈の趣を活かす

方針 2 防災まちづくりとの連携

方針2 防災まちづくりとの連携



《身近な歴史に親しむ界隈づくりの展開イメージ》

方針 1 身近な歴史的界隈の趣を活かす

身近な歴史的建造物や伝承などは、地域のまちの魅力の発掘・向上をするための大きな資産です。これらの身近な資産を活かすとともに、地域住民が主体となるまちづくりを促進します。

歴史的界隈…「まちの成り立ちを語る上で欠かせない祭礼・産業などの生活文化、地形・町割などの周辺環境を背景に、歴史的建造物がまとまりをもって存在する区域」

(平成 22 年 6 月 9 日 第 31 回名古屋市広告・景観審議会より)

(1) 歴史的界隈の発見・情報発信

市内には、まちの成り立ちやその後の経緯、構成要素はそれぞれ特有なものがあると共に、様々な機能・いくつかの時代背景が重なりあい、多様な歴史的界隈が存在するといえます。

それぞれの歴史的界隈について、「まちの成り立ち」「歴史的建造物の分布状況」「祭礼・産業などの営み」などの概況を整理し、地域主体によるまちづくりのきっかけとして活用できるよう情報発信を行います。

■歴史的界隈に関する基礎調査

- ・社寺・町家・近代建築などの年代、構造・用途・位置づけなど、歴史的建造物の現状について、現地調査を行いながら、把握します。
- ・歴史的建造物の分布状況、まちの成り立ち、祭礼・産業などの営みについて、現地調査を行いながら、歴史的界隈の特色等を把握します。
- ・地域の成り立ち、土地利用の用途などの様々な視点から、多様で一律に対応していくことが困難である歴史的界隈の状況について、できる限り分かりやすい整理を行います。

■歴史的界隈の情報共有

- ・調査した歴史的界隈の概況について、市民に広く周知し、身近なまちの歴史的建造物、まちの成り立ち、祭礼・産業などの営みを再認識してもらうとともに、市民からの新たな情報提供を受け、歴史的界隈の情報を充実させていきます。
- ・歴史的界隈の出来る限り多くの区域において、市民が中心となった歴史的資源を活かした地域のまちづくり活動に向け、機運の醸成を図ります。

歴史的資源の豆知識 【歴史的界隈について】

まちは広域多岐にわたるさまざまな要素から成り立っており、これらの要素が組み合わさって総合的な印象がひとつにまとまった「景観上のかたまり」を、名古屋市都市景観基本計画（昭和 62 年策定）では「景観自立地区」と呼んでいます。この景観自立地区の考え方をもとに、まちの成り立ちなどを考慮に入れたものを「歴史的界隈」として広告・景観審議会で位置付けました。「歴史的界隈」の中には歴史的建造物だけでなく、多様な祭礼・産業などの生活文化、地形・町割りなど周辺環境、まちの歴史、時代背景などがあると考えており、それらは、地域が持っている歴史的資源と言えます。今後、市民が中心となってこのような歴史的資源を有効に活用し、歴史的界隈の特性を活かしたまちづくりが必要と考えております。（名古屋市広告・景観審議会）

(2) 界隈の魅力を活かした地域まちづくりの推進

身近な歴史的界隈の魅力を、地域と協働しながら磨いていく活動を促進していきます。歴史的界隈の魅力を活かした地域まちづくりは、様々な時代に積み重ねられた歴史的資源を、地域の力により、改めて地域の魅力として浮かび上がらせるまちづくりともいえます。

■界隈の魅力を活かした地域まちづくりの推進

- ・歴史的界隈のまち歩き・歴史的資源等のマップづくりなどを通じて、地域の魅力の再発見・情報発信を促進します。
- ・歴史的界隈の魅力を特色づける歴史的建造物あるいは樹木等の保存・活用を促進すると共に、その特色を損なわないよう周辺環境の保全あるいは改善する活動を支援します。
- ・歴史的界隈に伝わる伝承、往来した人々にまつわるコトなど、形のないものについても、界隈の魅力として捉え、地域まちづくりの中で活かしていきます。

■界隈の魅力を活かした地域まちづくりの主な視点

- ・歴史的界隈の魅力は、捉え方により、多様な視点が存在しますが、6つの主な視点を以下に例示します。



【視点①】武将ゆかりの地や古戦場

名古屋には、三英傑をはじめとする歴史の表舞台で活躍し、それぞれの地域で愛される武将の生誕地やゆかりの地、城跡、古戦場などが数多く残されています。地域の歴史的資源として有効に活用する活動を促進・支援するとともに、共有する歴史的資源を有する周辺市町との連携も促進します。

＜主な歴史的資源＞

○名古屋にゆかりのある武将とその足跡

源 頼朝…誓願寺（生誕伝承地：熱田区）
藤原景清（平家）…景清社（熱田区）
織田信秀…末盛城跡（千種区）、古渡城跡（中区）
織田信長…那古野城跡（中区）、信長塀（熱田区）
豊臣秀吉…豊国神社（中村区）
徳川家康…徳川家康幽囚の地（熱田区）
前田利家…荒子城跡（中川区）
加藤清正…妙行寺（中村区）
柴田勝家…下社城跡（名東区） など

○桶狭間の戦いとその城跡

桶狭間一帯・桶狭間古戦場公園・大高城跡・鳴海城跡
鷺津砦跡・丸根砦跡・善照寺砦跡 など



豊国神社



桶狭間古戦場公園

歴史的資源の豆知識 【中村公園、豊国神社・豊臣秀吉】

豊臣秀吉の出生地と伝えられる中村に明治 18 年 8 月遺業を偲んで中村公園をつくった。

園内に有志が発案し、時の県令（県知事）国貞廉平の尽力を得て創祀したのがこの社である。

園内には「豊公誕生之地」碑をはじめ、産湯井戸など伝承的史跡がある。

参道には昭和 4 年につくられた鉄筋コンクリート製の大鳥居があり、柱の直径 2.4m、高さ 24m、笠木の長さ 34.5mあり、大きさの点では日本有数のものである。

加藤清正も秀吉の近所で生まれたと伝えられ、公園東隣の妙行寺には生誕碑がある。

（「名古屋の史跡と文化財（新訂版）（平成 3 年）」などより）

歴史的資源の豆知識 【桶狭間古戦場】

桶狭間合戦は、永禄 3 年（1560）5 月、大軍を率いて尾張入りし桶狭間に休息中の今川義元を、織田信長が奇襲によって打ち亡ぼし、27 歳の信長の名を天下に知らしめた戦いとして名高い。この古戦場や義元最期の地については古来諸説・伝承がある。いずれも正確な資料を欠くため確証を欠くが、現段階では合戦場は、丘陵と狭間の入り組み合った広地域にわたるものと推定されている。

（「名古屋の史跡と文化財（新訂版）（平成 3 年）」などより）

【視点②】名古屋を往来した人々

古くから東西要衝の地であった名古屋は、円空・松尾芭蕉など歴史に名を残した多くの人物が往来し、あるいは生まれ育った足跡やゆかりの地が数多くあります。それらの歴史的な資源であるモノ・コトをいかした地域のまちづくり活動を促進・支援します。

＜主な歴史的資源＞

○名古屋を往来した主な人々とそのゆかりの地

日本武尊（伝承）…白鳥古墳（熱田区）

最澄（伝承）…竜泉寺観音（守山区）

円空…荒子観音（中川区）、竜泉寺観音（守山区）

松尾芭蕉…「蕉風発祥の地」の碑（中区）

千鳥塚（緑区）

誓願寺（芭蕉堂・芭蕉最古の供養塔）（緑区）

笠寺観音（松尾芭蕉の句碑）（南区）

林桐葉宅跡（熱田区）

風月堂書林跡（中区） など

宮本武蔵…笠寺観音（宮本武蔵の供養塔）（南区）

葛飾北斎…西本願寺名古屋別院（大ダルマ即書会会場）（中区）

など



白鳥古墳



千鳥塚



宮本武蔵の碑

歴史的資源の豆知識【松尾芭蕉・葛飾北斎】

松尾芭蕉が初めて名古屋を訪れたのは、貞享元年（1684）初冬、41歳のときである。それまで江戸で築きあげた俳諧宗匠としての人生に飽きたらず、世俗的な生活を脱して文芸に専心することを模索していた頃だった。いわゆる『野ざらし紀行』の旅の帰途、名古屋の裕福な商人たち、すなわち医師の山本荷兮^{かへい}、呉服商岡田野水、材木商加藤重五らに招かれて連句の会を催した。これを収めて刊行されたのが『冬の日』で、芭蕉が目指していた反俗的な新境地を示すものとして、芭蕉の代表作を集めた「俳諧七部集」の第一集に位置づけられている。名古屋を「蕉風発祥の地」とするのはこのためで、昭和45年にはこれを記念する碑がテレビ塔下に建てられた。貞享元年以降、芭蕉は名古屋城下や熱田、鳴海に度々立ち寄り、当地方の俳諧に大きな影響を及ぼした。

葛飾北斎は、文化14年（1817）の春から名古屋城下に滞在し、名古屋の本屋永楽屋などから刊行中の絵手本集『北斎漫画』の下絵制作にいそしんでいた。その秋、この北斎による大ダルマ即書会のニュースが城下をかけめぐった。10月5日、折しも達磨忌の当日は、朝早くから貴賤群衆し、会場である西掛所（本願寺名古屋別院）付近は大混雑した。巳の上刻（午前9時頃）から始まったが、百二十畳もある紙に藁を束ねた筆で書くこととあって完成したのは夕方のこと。翌日はこれを高く掲げて見物人に披露したが、出来映えは実に壮観、まれに見る快挙とほめられた。（「開府400年記念特別展 名古屋400年のあゆみ」（名古屋市博物館）などより）

【視点③】近代のロマンや風情が伝わる住宅地等

市内各所に残る日本家屋の技術を継承しつつ、西洋文化を巧みに取り入れた、近代和風・和洋折衷住宅や、戦前から戦後にかけてのレトロな雰囲気が残る商店街・町並みなどを活かし、大正～昭和のロマンや風情・趣を伝え、魅力の継承を図ります。

＜主な歴史的資源＞

○市内各所に残る近代和風・和洋折衷住宅

- ・近代和風住宅とは、伝統的な意匠や様式も踏まえつつ、自由で多様なデザインを組み入れたものです。
- ・和洋折衷住宅とは、和風建築と洋風建築を意図的に折衷した住宅です。
- ・市内では昭和区・瑞穂区などに多く残っています。

○大正～昭和の趣を残す商店街や路地などのレトロ空間



和洋折衷住宅



旧松岡旅館

【視点④】水と緑の歴史的環境

水（河川・用水・ため池）や緑（里山・鎮守の森）などの歴史的環境を活かしたまちづくりを、保存樹や特別緑地保全地区等の制度も利用しつつ、促進・支援します。

＜主な歴史的資源＞

○水

山崎川など歴史のある河川

庄内用水などの用水

市内に残されているため池 など



庄内用水

○緑

熱田神宮のクスノキを始め歴史的・文化的価値を有する名木や緑地

東部丘陵地に残る斜面緑地・里山 など



熱田神宮のクスノキ

【視点⑤】集落や街道の風致

身近な地域での歴史的経緯・地域の成り立ちや生活文化を伝える集落の風致とともに、集落を結ぶ古の人々の交流の息吹を感じる街道の風致を活かしたまちづくりを支援します。

＜主な歴史的資源＞

○歴史的集落・宿場

戸田、下之一色、万場、岩塚、
中小田井、星崎 など

○街道跡

百曲街道、稻生街道、四観音道、塩付街道、
郡道、中馬街道 など



万場



百曲街道

【視点⑥】古代の歴史風景

古墳や遺跡など古代の風景や人々の営み・風景に想いをはせることができる地域を保全し、現代の生活の中でうるおいをあたえるよう努めます。

＜主な歴史的資源＞

○古墳

断夫山古墳（東海地方最大の古墳）
白鳥古墳、
志段味古墳群 など

○遺跡

見晴台遺跡、大曲輪遺跡、西志賀遺跡 など

○古窯群

東山古窯群 など



一本松古墳（名工大）



遺跡の発掘現場
（平手町遺跡、日本最古の舟形木棺）

・以上、6つの主な視点を例示しましたが、「棒の手」など無形の文化財が分布する地域を捉える視点、伝統産業等の集積を捉える視点、あるいは「震災・戦災・水害」など名古屋が乗り越えてきた試練の痕跡を捉える視点など、多様な視点が考えられ、地域と共に、界隈の魅力とする、あるいは地域からのメッセージとするまちづくりを支援していきます。

方針 2 防災まちづくりとの連携

歴史的環境を残す市街地等において、地域住民などの活動を活かしつつ防災まちづくりと連携した取り組みを促進します。

(1) 歴史的環境を活かした安心・安全なまちづくりの推進

歴史的環境を活かしつつ、避難路・空地・消防水利等の確保、地域の防犯・防災活動の強化、歴史的建造物の防災性能の強化などを通じて、安心・安全な地域のまちづくりを推進していきます。

■まちの魅力と課題の共有

- ・狭い路地裏や古い町並みには包み込まれるような安心感や生活感など歴史を積み重ねてつくられた魅力的な空間があります。しかし、防災面では防火上の区画割りができていないため、火災が延焼しやすい問題や地震時には狭あい道路が塞がる可能性が高いなどの課題があります。地域の人々がまちの魅力を認識するとともに、そのうえで防災上の課題の共有を図ります。

■地域防災力の強化

- ・地域活動や市民団体が鎮守の森などの歴史的資源を貴重なオープンスペースとして活用するなど、地域の歴史的風合いを損なわずに地域防災力を強化するまちづくりに向け、課題を共有し解決方法を考える活動を支援します。

■歴史的建造物の防災性能の強化

- ・歴史的建造物の多くは防災性に問題を抱えているケースがありますが、歴史的建造物の雰囲気を変えないような防火対策・耐震対策などの防災性能の強化の方策について、技術的な支援を推進します。また、水害のおそれのある歴史的界隈では、先人の知恵を活かした家づくり・まちづくりを促進していきます。

戦略Ⅳ 地域力で歴史的資源を「まもり・いかし・つなぐ」仕組みづくり

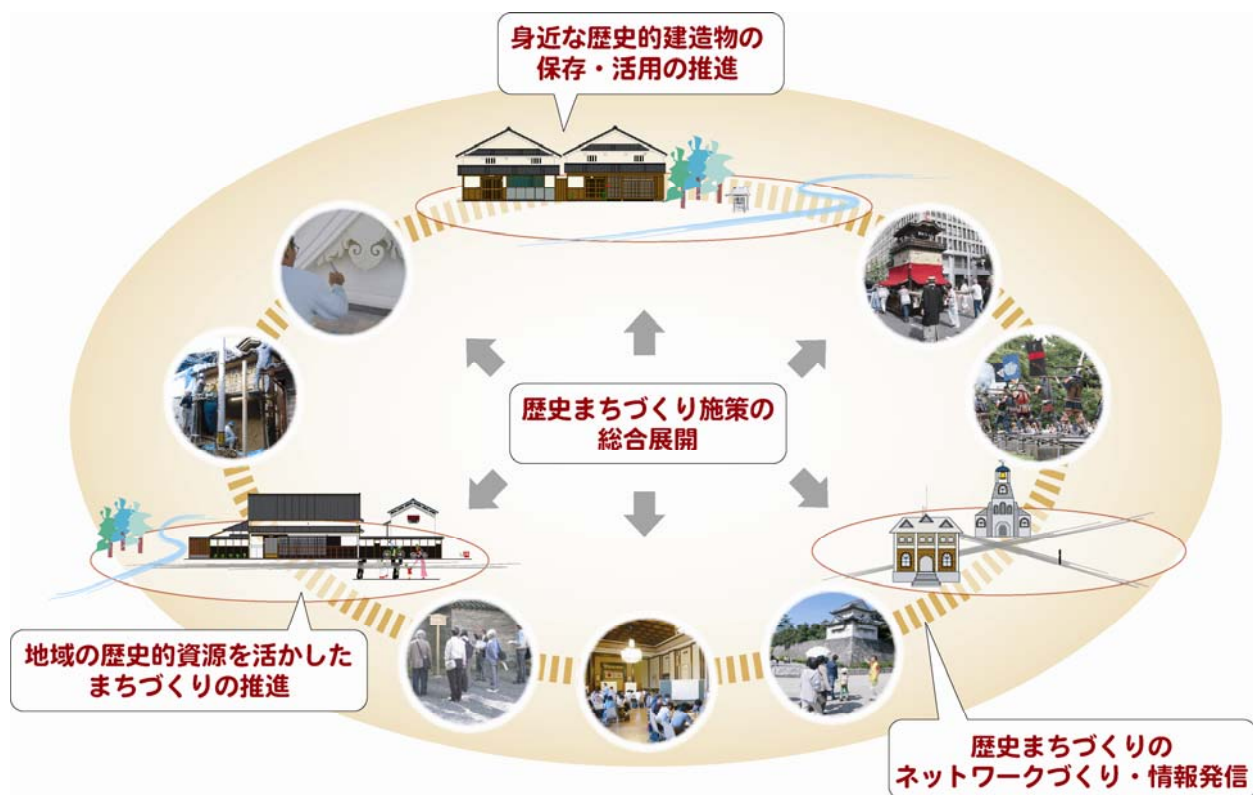
主体的で多様な市民活動と、環境・文化・観光など分野横断的な行政の取り組みとの協働により、地域力で歴史的資源を「まもり・いかし・つなぐ」仕組みをつくり、地域の人々が地域の持つ歴史の積み重ねや地域の「らしさ」を感じ、語りたくなるまちづくりを促進します。

方針１ 身近な歴史的建造物の保存・活用の推進

方針２ 地域の歴史的資源を活かしたまちづくりの推進

方針３ 歴史まちづくりのネットワークづくり・情報発信

方針４ 歴史まちづくり施策の総合展開



《地域力の展開イメージ》

方針 1 身近な歴史的建造物の保存・活用の推進

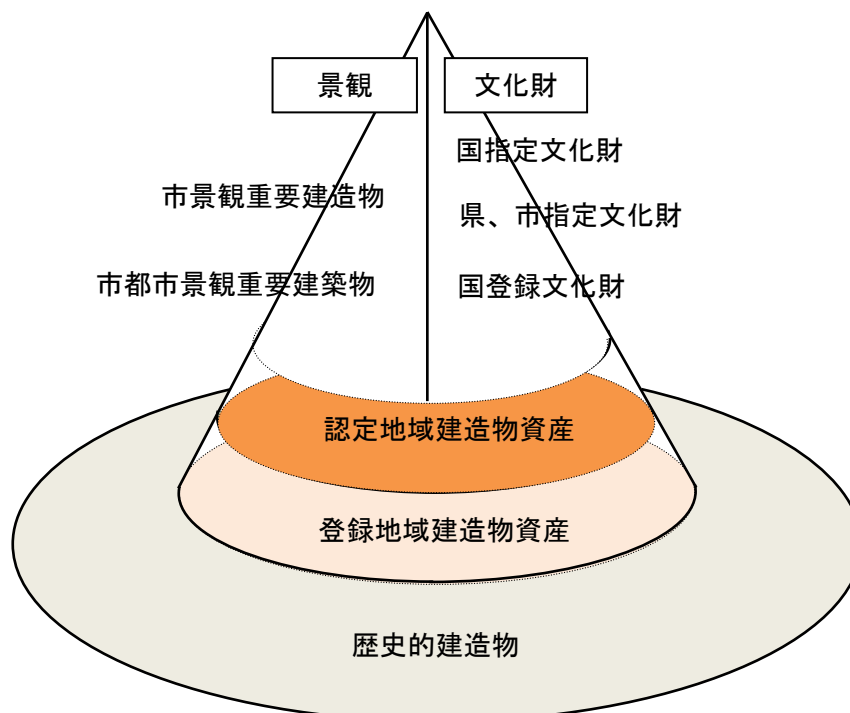
景観に深みと個性をもたらし、地域を特徴づける身近にある歴史的建造物について、保存・活用に向けた取り組みを支援し、地域で愛されてきた建造物を「壊さず使う」という風土を醸成していきます。

(1) 総合窓口

- ・身近な歴史的建造物の保存・活用に関する総合窓口を設置し、歴史的建造物の滅失に関する危機情報をできる限り早い段階で入手し、早急に現況を把握し、必要に応じた対応を実施します。
- ・歴史的建造物の保存・活用の相談を真摯に受け、必要に応じて支援策を講じ、適切な部署や関係機関を紹介するなどの対応を行います。
- ・身近な歴史的建造物に関する情報を収集し、一元的な管理を行います。

(2) 登録・認定制度の実施

- ・条例に基づいて、地域に愛される景観的・文化的価値を有する築50年程度以上の建造物について、所有者の了解を得ながら「登録地域建造物資産」として登録を行い、保存・活用に向けた意識醸成を図っていきます。
- ・「登録地域建造物資産」などのうちから、一定の水準以上のものについては、広告・景観審議会に諮り「認定地域建造物資産」として認定を行い、現状変更の際には届出を受けるなど、保存・活用を推進していきます。



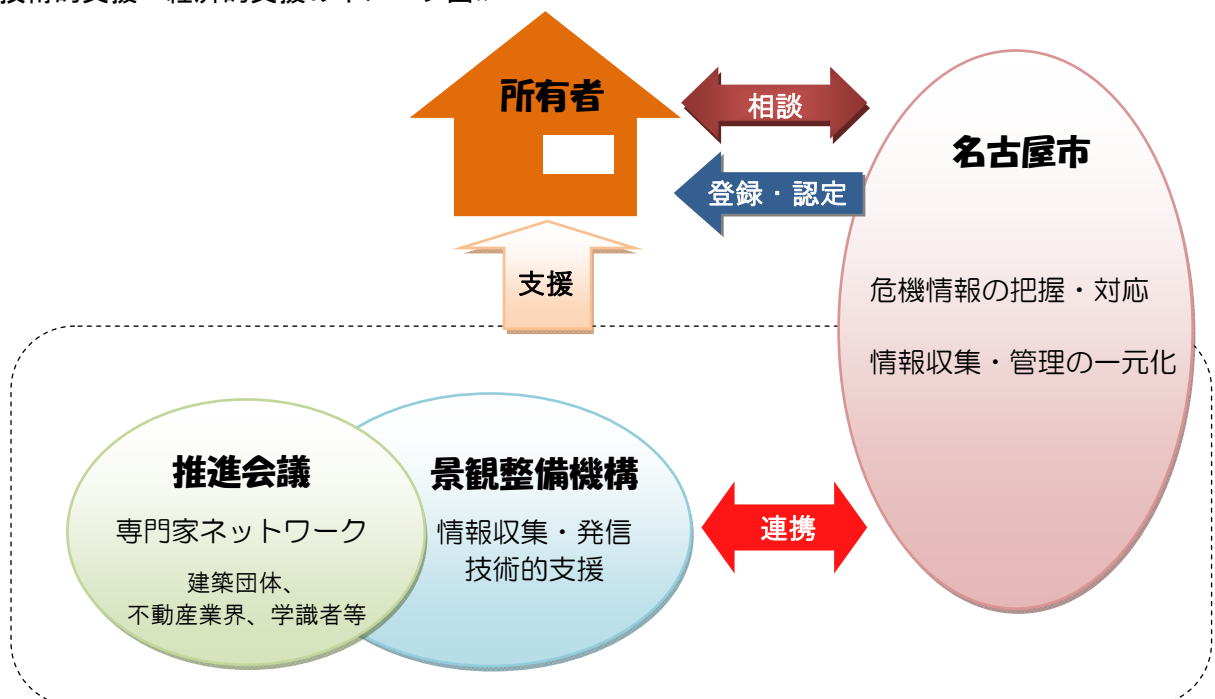
(3) 支援体制の構築

- ・歴史的建造物に対する支援については、景観整備機構などと協働しながら、登録地域建造物資産、認定地域建造物資産、景観重要建造物、指定文化財など段階に応じた適切な支援を行います。また、従来の枠組みでは支援がしにくいコンバージョン（用途転換）などの取り組みについても支援できるよう体制を構築していきます。
- ・景観整備機構を中心にしながら、専門家のネットワークを構築し、技術的支援が可能となる体制の構築を進めていきます。
- ・登録地域建造物資産については、専門家などの相談派遣を行うなど、技術的支援を中心に保存・活用を促進します。
- ・認定地域建造物資産については、技術的支援に加え、経済的支援を一定程度行い、保存・活用を更に推進します。
- ・経済的支援の財源として、基金を設置するなど、市民からの寄付を受けながら、市民と行政の協働により歴史的建造物の保存・活用を支援する仕組みづくりを進めます。
- ・重要な歴史的建造物の保存・活用に向けては、都市再生特別地区などの都市計画制度を積極的に活用していきます。



住民主体による募金等で再生した町屋（有松）

《技術的支援・経済的支援のイメージ図》



方針2 地域の歴史的資源を活かしたまちづくりの推進

地域における歴史的資源の発掘や、地域主体の歴史まちづくりへの取り組みを通じて、歴史的資源をいかしたまちづくりを推進し、魅力向上を図っていきます。

（１）歴史的資源の発掘

- ・それぞれの地域における、郷土の歴史文化の学習会やイベント、まち歩きなどによる歴史的資源を発掘する活動を支援していきます。
- ・地域主体による歴史的資源のマップづくりなど、地域の資産の再認識と情報発信する活動を支援していきます。
- ・旧城下の碁盤割地区の通り名など、歴史的経緯や謂れのある「旧町名」を活かす仕組みづくりを検討していきます。



熱田区まちづくり協議会による
熱田ぐるりんマップの作成

（２）地域主体の歴史まちづくりの推進

- ・それぞれの地域で行われている、歴史的建造物を活用したイベントの開催、伝統祭事の復活等、歴史的資源を活かしたまちづくりへの取り組みを支援します。
- ・地域による案内板の設置など、地域の歴史的資源を紹介する活動などを支援していきます。



まち歩きの発表会(那古野)

（３）持続的なまちづくりの仕組みづくり

- ・持続的なまちづくりを進めていくための仕組みとして、地区計画・建築協定などの既存制度なども活用していきます。
- ・地域主体のまちづくりの立ち上げを促進し、持続していくために、まちづくりの活動団体の支援を行います。
- ・地域主体による歴史的資源を活かしたまちづくりを推進していくために、財源のあり方・体制のあり方・人材育成のあり方など、その仕組みについて諸外国等の先進事例の研究をしながら検討を進めていきます。



堀川まつり・大まきわら船の復活



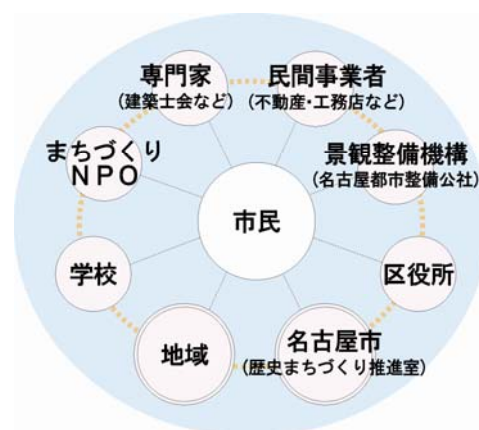
緑区ルネッサンスフォーラムによる
高札場の復元（鳴海）

方針3 歴史まちづくりのネットワークづくり・情報発信

歴史まちづくりのベースとなる地域の歴史的資源等の情報の共有・活用を図るとともに、多様な主体をつなぐネットワークの形成・交流を促進します。

(1) 多様な主体をつなぐプラットフォームづくり

- ・地域やまちづくりNPO、学識者、専門家団体、民間事業者など、歴史まちづくりに関わる多様な主体の交流や連携を強化します。
- ・歴史的建造物の保存・活用に向け、景観整備機構を中心に建築団体・不動産業界・学識経験者等から構成される「歴史的建造物保存活用推進会議」を多様な主体をつなぐプラットフォームの中心として、活かしていきます。
- ・また、各地域における「まちづくり協議会」などのまちづくり団体との交流・連携も促進していきます。



歴史まちづくりのネットワーク
(イメージ)

(2) 歴史まちづくりの人材育成

- ・景観整備機構による「名古屋歴史的建造物保存活用推進員(なごや歴まちびと)養成講座」を開催するなど、歴史的建造物の保存・活用の担い手となる専門的知識を持った人材育成を推進します。また、育成された人材が、多くの場面で活躍できるよう、環境を整えていきます。専門家の育成に加え、一般市民にも理解しやすい講座の開催など、市民意識の醸成に努めます。
- ・地域のまちづくりの中心となる人材を養成していくため、専門家の派遣、養成講座等の開催を進めます。



名古屋都市センターの
まちづくりびと養成講座風景

(3) 情報発信・交流促進

- ・地域住民、市民活動団体、行政など多様な主体により収集・整理された歴史的資源の情報を取りまとめ、歴史まちづくり情報のデータベースを構築していきます。
- ・地域の歴史的魅力を紹介するパンフレットの作成やホームページづくりなど、歴史まちづくりに関する情報発信に取り組みます。
- ・「歩こう！文化のみち」を始め多様な主体が参加するイベントを開催するなど、歴史まちづくりに取り組む人と人との交流を促進します。



ホームページによる情報発信
(なごや歴まちネット)



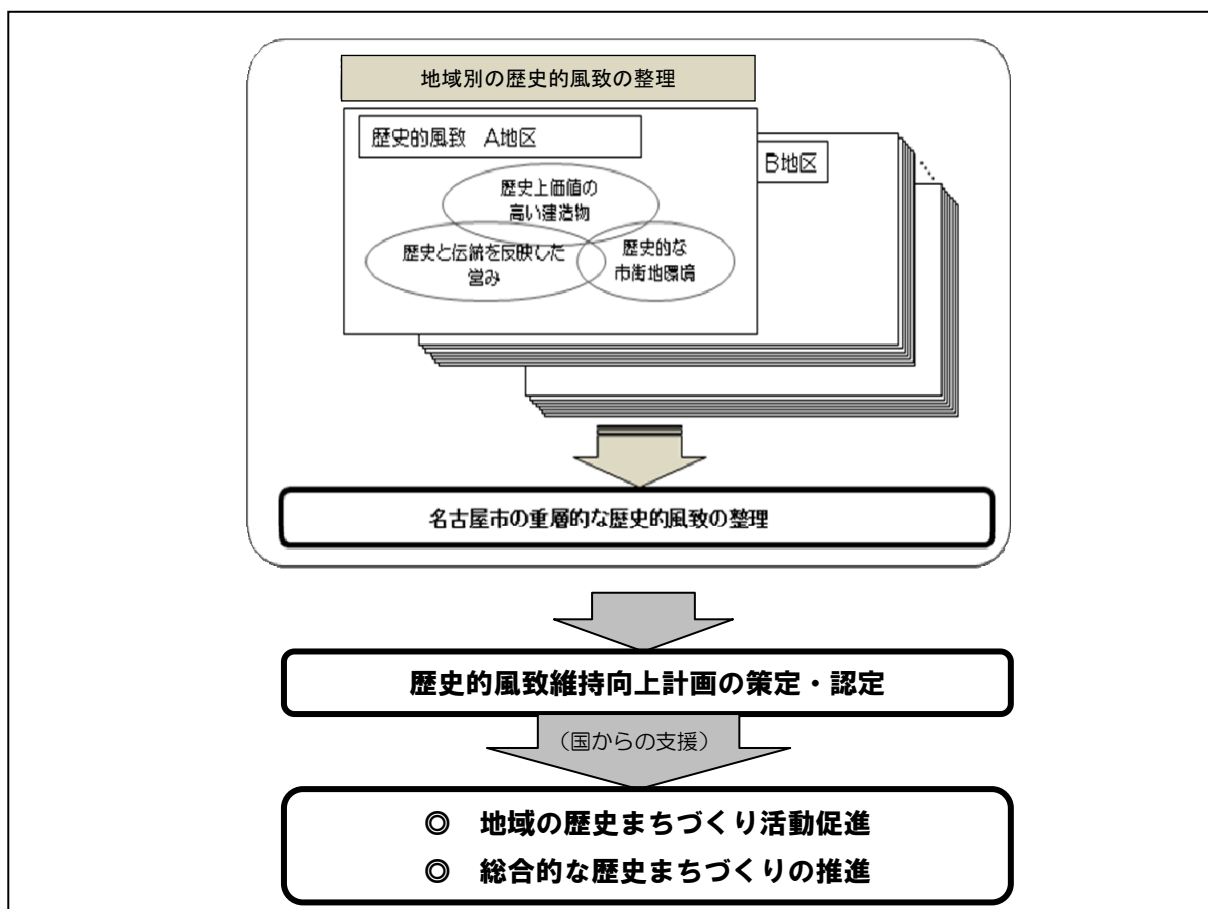
歩こう！文化のみち

方針4 歴史まちづくり施策の総合展開

地域力を活かした歴史まちづくりを持続的に進めるため、これを支える行政の支援制度や施策の総合的な展開を推進します。

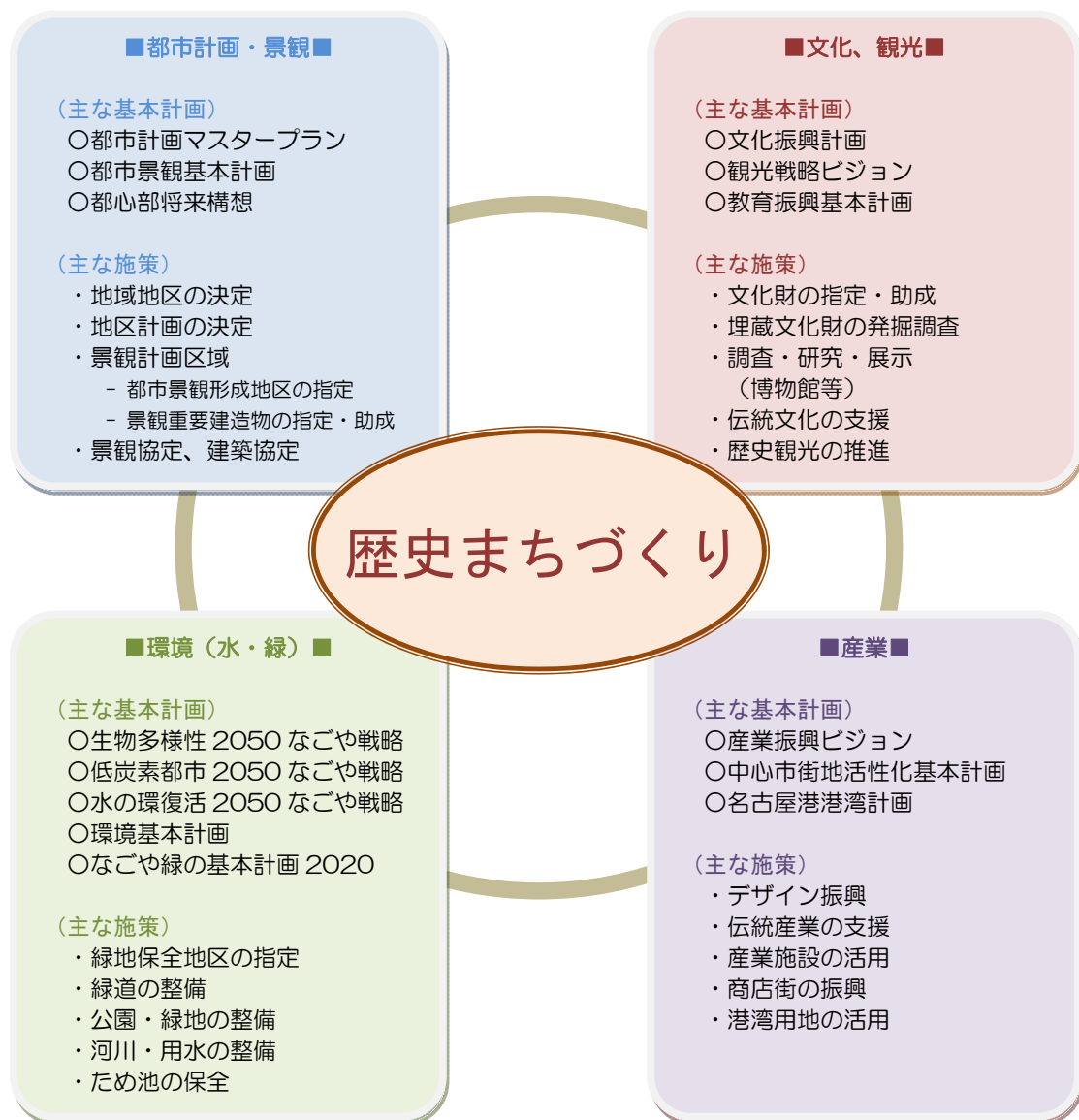
(1) 歴史まちづくり法に基づく歴史的風致維持向上計画の策定

- ・名古屋市全域の各所について「地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動とその活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地とが一体となって形成してきた良好な市街地の環境」と定義される「歴史的風致」を整理した上で、歴史まちづくり法に基づく、歴史的風致維持向上計画を策定し、戦災都市かつ大都市として初めてとなる、国の認定計画となることを目指します。
- ・計画策定の過程の中で得られた、市内各所の「歴史的風致」を地域のまちづくり活動へ還元し、活かしていきます。また、認定されることにより、国の支援を受けながら、総合的な歴史まちづくりをより一層推進するとともに、市の歴史まちづくりへの姿勢とこれまで脚光を浴びなかった名所を市の内外にPRします。



(2) 行政施策の総合的な展開

- ・都市計画・景観、文化、観光、環境（水・緑）、産業などの様々な分野における長期計画や行政施策を、歴史まちづくりの視点からも総合的に展開します。また、歴史まちづくりを積極的に展開することにより、景観・文化・観光・環境・産業施策など他施策にも、波及的な影響を与え、市の魅力向上に向け好循環を生み出していきます。
- ・歴史まちづくりの大きな要素となる指定文化財は、長い歴史の中で生まれ、育まれ、今日の世代に守り伝えられてきた貴重な市民共有の財産で、歴史・文化等の正しい理解のために欠くことのできないものです。行政、所有者、市民等の連携をもとに文化財を保存して次世代に継承し、積極的に公開・活用を行うように努めます。



（３）周辺市町村・広域連携の推進

- ・桶狭間の戦いや小牧・長久手の戦いなどの古戦場、城下町誕生のもととなる清須、この地方ゆかりの三英傑をはじめとした武将ゆかりの地、尾張藩であった地域など、共通のテーマをもった周辺市町村と連携して歴史まちづくりをすすめます。



《周辺市町村連携のイメージ図》

『尾張美濃参河飛驒信濃五ヶ国絵図』（江戸後期）愛知県図書館蔵

- ・山車などの祭、木材・木製品・大工技術など「木の文化」、陶磁器産業など「土の文化」、繊維・織物・染織など「糸の文化」及び木曽川水系の電源開発に始まる「鉄の文化」など、産業・文化を共有する地域を始め、伊勢湾を含む木曽川流域圏、古代から近代まで、東西の要衝の地として関連の深かった地域との連携など、歴史を共通のテーマにもった広域的な地域連携を促進し、情報発信に努めます。
- ・中部地方のさまざまな歴史的資源や産業遺産などの豊富な魅力を活かして、テーマ性やストーリー性のある具体的な取り組みを進めるなど、広域観光圏全体としてのブランド力を高め、広がりのある広域観光を推進します。



《広域連携のイメージ図》

NASA WorldWind1.4 NLTLandsat7 (Visible Color) を加工

歴史的資源の豆知識 【木・糸・土・鉄（機械）の産業技術の系譜】

1 「木」

江戸時代、名古屋は木曾や飛騨地方がはぐくんだ良質な木材の集散地でした。その産業の歴史は今日もお受け継がれています。名古屋の「木」の産業技術は、豊富な良材とそれに携わる職人達、そして江戸時代からつちかわれた経営資源などを活かし、時計・鉄道車両・合板・楽器（バイオリン等）・航空機などの近代産業に発展したほか、仏壇・仏具・桐箆笥・木桶・扇子などの伝統産業として今日に至っています。また、初期の機械や車両には木製品が使われましたし、合板は名古屋名物のパチンコ台にも応用されました。

2 「糸」

江戸時代、尾張・知多・三河は綿織物の一大産地でした。この歴史は明治時代に入ってから受け継がれ、その後、愛知県は綿・毛・合織の三拍子そろった「繊維王国」と呼ばれるに至りました。

また、「繊維王国」として発展した当地域における、さらに大きな特色として、「糸（繊維機械）」の産業技術を礎に、自動車産業が発展していった点があげられます。日本の発明王・豊田佐吉は、世界最初の完全な自動織機を完成させ、繊維産業の発展に大きく貢献しました。その後佐吉が発明した自動織機の特許権を譲渡した代金を長男・喜一郎に自動車開発資金の一部として与えました。

3 「土」

焼き物の産地で、平安時代末期から室町時代にかけて隆盛し、現在まで至る代表的な古い窯のことを六古窯（瀬戸・常滑・越前・丹波・備前・信楽）と呼んでいます。このうち、瀬戸と常滑はともに尾張にあり、特に瀬戸については“瀬戸物”という名称が、古くから陶磁器の代名詞となっているほどです。

全国には数多くの陶磁器産地がありますが、名古屋地域は、伝統的な陶磁器産業が近代的な陶磁器産業へと飛躍した、という点が特筆されます。その影には、この地域が育てた豊富な職人達と良質な原料を名古屋に持ち込み、それらを近代陶磁器産業として開花させた森村市左衛門の大きな努力がありました。

1904年には日本で初めて西欧の近代的な生産設備を備えた陶磁器量産工場を、現在の名古屋市西区則武新町に建設。陶磁器を日本の一大輸出産業として育て上げたのです。

4 「鉄（機械）」

1889年名古屋市制が施行され、市内に初めて電燈をともした名古屋電燈（現・中部電力）は、やがて水量豊かな木曽川水系の電源開発に着手しました。

当時の社長で、福沢諭吉の娘婿だった福沢桃介は、日本各地の電気事業を取り仕切った“電力王”と呼ばれ、新会社を起こす名人でもありました。

彼は、水力発電の余剰電力を活用した電気炉による特殊鋼（現・大同特殊鋼）の生産をはじめたほか、1937年に矢作製鉄（現・ヤハギ）を設立しました。

和時計やからくり人形が守り育てたモノづくりの蓄積は、明治時代になると、鉄を素材とする機械産業に生かされました。機械の技術は、その後、木や糸や土の産業と相乗効果を発揮するような形で発展し、名古屋地域はそれらの素材を加工し、部品を生産し、組み立てる機械工業・産業用ロボットのメッカとなりました。

（「産業のなごや2010」より）

※本文中に掲載している図面等については、できるだけ分かりやすい表現となるようイメージ図として作成しております。

※「歴史的資源の豆知識」の記載については、引用元の記述を活かしているため、文体の統一等は図られておりません。